

「新環境基本計画」及び「新地球温暖化対策実行計画」策定についての意見（案）

1 環境基本計画の「環境像」について

国では 2050 年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを掲げ、他国でも自動車のガソリン車から電気自動車等への転換が進むなど 2050 年に向けて社会が大きく変化していくことが予想される中で、みどりや自然環境も含めた新たな「環境像」を検討し、「環境像」に向かってバックキャスティングの考え方で目標等を定めること。

2 エネルギー転換部門の取り扱いについて

温室効果ガス排出量にエネルギー転換部門を不算入とする場合には、その位置付けを明確にし、吸収源についても具体的に算定すること。

3 気候変動適応策について

気候変動の影響による災害や被害が多発し、気候変動への対応が喫緊の課題となっていることから、平成 30 年 12 月に施行された「気候変動適応法」に基づき、本市の実情に即した適応策を検討すること。

4 温室効果ガスの吸収源について

温室効果ガス排出量の実質ゼロに向けて、温室効果ガス排出量を相殺（オフセット）する吸収源として、グリーンカーボンやブルーカーボンなどについて検討し、新計画に位置付けること。

5 再生可能エネルギーの更なる導入について

今後、脱炭素社会の移行に向けてより一層の温室効果ガス排出量の削減に取り組む必要があることから、家庭や事業者、公共施設等への再生可能エネルギー導入促進の施策を検討すること。